

## 第2回 日向工業高等学校建築科「よのなか教室」

平成27年5月14日（木）

講師：甲斐史朗（甲斐外科整形外科院長）

テーマ：①学ぶ意義

②東日本大震災での経験

③故郷を大切にし、恩返しをする事

なぜ勉強するのでしょうか。私も勉強が面倒くさいと思っていた時がありました。しかし、勉強は自分の夢や将来やりたいことを実現するために必要なものですし、社会人としての最低限の常識を身につけておかなければなりません。また、世の中に出て働くことで、①お金②明確な目標③多くの出会い④学び⑤信用⑥自信の6つの大切なものがもたらされます。

東日本大震災が起こった時は、千葉の病院で手術の最中でした。手術台や器財が手術室の中を動き回るなど、大変な状況でした。その後、復興ボランティアとして被災地に赴き、病院を交代で24時間稼働させるなどの活動に従事しました。中でも一番迷ったのが、被災された方々への声のかけ方でした。本当に大変な経験をされた方々への言葉の選び方は非常に難しいものでした。

私は医師として「これまでお世話になった地元の人達に、何をしてあげられるのだろう」という問いを持ったことがきっかけで故郷に帰ってきました。皆さんも、愛する地元へ恩返しする気持ちを持って、活躍して下さい。



～生徒の感想より抜粋～

- 今回のよのなか教室は甲斐外科整形外科の院長先生のお話しでした。講話の中でとても印象に残ったことは、東日本大震災が起こった時、手術中で患者さんを守るのが大変だったという話でした。甲斐先生には、どんなに大きな災害が起きたとしても、冷静に判断出来る力があるのだと思います。当たり前の事かも知れませんが、震災時は正直怖かったのだと思います。それでも患者さんを最優先に考え守ることが、医師の役目だとも思いました。私も、人のための尽くせる人間になりたいです。震災後に被災地に赴かれた時の話しもいただきました。建物はほとんど崩れていたり、流されていたりしていたそうです。特に印象深かったのは、ご遺体のおいや、がれきが山のように積まれていたという話でした。私は被災地には行ったことがありませんが、甲斐先生も心が痛んだのだろうと思います。それでも、一人でも多くの方を救おうと、病院を24時間開けて頑張っている姿を拝見し、とてもかっこよかったです。私達も甲斐先生のように、誰にでも思いやりを持って接したり、人の為に尽くしたり出来る大人になりたいと思いました。この講話で学んだことを忘れずに、これからの生活に活かしていきたいです。
- 第2回目の「よのなか教室」、今回は甲斐史朗さんのお話しでした。甲斐史朗さんは故郷思いで、人々を助けたいという心を持った優しい方でした。甲斐さんは、働くことについて話して下さいました。働くことは ①お金をもたらす、②明確な目標をもたらす、③多くの出会いがある、④学びをもたらす、⑤信用をもたらす、⑥自信をもたらすと教えてくれました。また、大震災についてもお話しして下さいました。この自信は日本国にとって忘れてはならないことだと思います。被災地の支援に赴いて苦労したことは、被災された方々に接するときの言葉だとおっしゃいました。助かった人達も、身内に亡くなった方がいて悲しんでいる時に、どのように心のケアをしていけるのか、かなり迷ったそうです。最後に2つの気持ちを話して下さいました。一つ目は「感謝の気持ち」お世話になった人に恩返しをする事。二つ目は「素直な気持ち」考え方を変えて素直になる事。この2つの気持ちは生きていく上で大切な事なので、忘れずに実行していきたいです。
- 今回の講話を聞いて、僕は学んだことが沢山ありました。まず、「感謝の気持ちを持つ」ということです。いつもお世話になっている人達への感謝の気持ちを忘れないようにしようと思います。特に、母への恩返しをいつかしたいと思いました。また「素直な気持ちを持つ」のも大切な事です。僕も素直になる事は大事だと思いますが、なぜか素直になれません。今日の話を意識して、もっと素直になりたいと思います。「働くことは色々な事をもたらす」という話もありました。明確な目標や学び、信用、自信などがもたらされるそうです。働くことは大変な事だと思いますが、仕事を通して色々なことをもたらせてくれると言うことを知りました。将来、働くことになりましたが、もたらしてくれる事と向き合い、誠実に生きていきたいと思います。